

1 単元名 開国と幕府の終わり

2 単元の目標

- 江戸時代末期の国内外における歴史的事象に関心を高め、幕府が滅亡することとなった理由や時代背景について意欲的に追究しようとしている。(関心・意欲・態度)
- 江戸幕府の大名統制や百姓・町人に向けての政策、鎖国等の対外政策が変化した理由について、国内外の社会情勢をふまえて考察し、適切に表現することができる。(思考・判断・表現)
- 財政の立て直しに成功した諸藩の改革と比較して、天保の改革が失敗した理由等を適切に読み取ることができる。(資料活用の技能)
- これまでの幕府の政策や改革とその影響、幕府が滅亡するに至るまでの歴史的事象についての知識を身に付けている。(知識・理解)

3 単元の全体計画(全5時間)

- (1) 日本を取りまく世界情勢の変化・・・1時間
- (2) 諸藩の改革と幕府の衰退・・・1時間
- (3) 黒船来航の衝撃と開国・・・1時間
- (4) 江戸幕府の滅亡・・・2時間(本時2/2)

4 本時の学習(5/5時)

(1) ねらい

江戸幕府を存続させるために有効だと思う政策を既習事項から考えることで、幕府の滅んだ理由を明確にすることができる。

(2) 研修主題との関連

<本校研修主題>

「自ら学び、共に学び合い、粘り強く取り組む生徒の育成」

生徒は授業に真面目に取り組んでおり、自分の考えを発表したり、グループで意見交換をしたりする活動に意欲的に参加する。しかし、自分の考えを説明する際、経験や既習事項、資料を根拠としながら説明したり、他と比較して自分の考えを構築したりする力の定着は、まだ不十分である。また、歴史的事象は過去の事実であり、歴史的分野を暗記教科だと考えている生徒も多い。

そこで、次の点に留意して、授業を展開していく。

- 「史実を変えてみることができたら」という仮定で学習課題を設定し、生徒が自分の既習経験や体験等を踏まえ、自由な発想で考えることができるようにする。しかし、課題解決に際しては、歴史的事象とその影響を踏まえて考え発表させることで、思考・判断力、表現力を高め、歴史的知識の定着も図る。(主体的な学びの場の設定)
- 考えの似た生徒同士でグループを作り、改革の政策について、既習事項や資料を根拠としながら考えを構築する。その後、考えの異なる生徒との話し合いを行わせ、政策のランキングを決定させることで、対話的で深い学びを引き出す。
- 板書を構造化し、思考のよりどころが歴史的事象を根拠としたものになるようにする。(共に学び合う場の設定)

(3) 本時の展開

時配	学 習 活 動	・指導上の留意点 ★評価(評価方法) ◆研修主題との関連
8	1 既習事項を整理し、課題解決の見通しをもつ。 ○大名統制(武家諸法度、その他法令等) ○対外政策(禁教、貿易統制等) ○国内政策(新田開発、商業政策、身分制度等) ○三大改革と田沼の政治 (享保、寛政、天保の改革の内容と結果、影響) ○諸藩の改革(成功した例) ○開国(不平等条約、安政の大獄等)	・江戸幕府が約260年間続いた理由として考えられることを、ランキング形式で整理させておく。 ◆主体的な学びの場の設定 ・江戸幕府の国内外の政策について、既習事項を確認する。 ・享保の改革、田沼の政治、寛政の改革、天保の改革の特徴を押さえる。 ・改革に成功した諸藩の事例も確認する。
2	2 本時の課題を確認する。 もし、自分が徳川慶喜なら江戸幕府を存続させるためにどのような改革を進めるか。	

103	3 改革の内容を考える。 (1) 個人で進める政策を考える。 ○大名統制・・・大名や藩に対して ○対外政策・・・外国や貿易に関して ○国内政策・・・百姓や町人に対して (2) グループ①で進める政策を話し合う。 ○大名統制の例 参勤交代を廃止する。 それは、 参勤交代を廃止したら、 それぞれの藩が、経済的に余裕が出て、 幕府に対する反感も減ると思うからです。	・自分で選んだ視点について、政策とその影響を一つ以上考えるよう指示する。 ・大名統制、対外政策、国内政策の三つの視点のうち、ランキングを1位にしている生徒同士でグループ①を作っておく。 ・各自が考えた政策の内容について、どのような影響が考えられるか、根拠を確認しながら話し合うことを確認する。 ・グループ②での活動に向け、発表メモをつくるように指示する。 ・発表メモが書き出せない生徒には定型文を提示する。 ◆共に学び合う場の設定 ★社会的事象についての知識・理解 幕府が行った政策と、その影響について理解している。(ノート、発言)
204	4 改革の内容をグループ②で話し合う。 (1) グループ①で話し合った政策について、発表する。 (2) グループ②内で、重点政策を選び、ランク付けして、自分たちの改革を考える。 慶応の改革 幕府A 1 参勤交代を廃止する。 (大名) 経済的に余裕が出て、幕府に対する反感が少なくなるから。 2 年貢を軽くする。 (国内) ききん等で米がとれなくて、百姓一揆や打ちこわしが起こったから。 3 貿易品目を限定する。 (対外) 関税自主権がないので、国内の産業が打撃を受けたから。	・各グループから二人ずつ集まり、グループ②(幕府)を二つ作るよう指示する。 ・グループ②では、どのような政策を進めるのか根拠を示し、根拠の妥当性を吟味し合うように伝える。 ・机間指導では、根拠となる史実や資料を明らかにして説明したり、既習事項や生活経験と結び付けて考えたりしている生徒を認める。 ★社会的事象についての思考・判断・表現 江戸幕府を存続させるために必要だと思う政策を、歴史的事実とその影響から考え、根拠を明らかにして説明している。(発言、ノート) ・改革として行う政策と選んだ理由を黒板に掲示していくよう指示する。 ◆共に学び合う場の設定
105	5 本時の学習を振り返る。 ・幕府の終わりは「時代の流れ」であり、止められなかったと思う。 ・「時代の流れ」に応じた改革をしていれば幕府は存続できたと思う。 ・厳しくするだけではなく、「時代の流れ」を読んで改革を行えばよかったと思う。	・話し合いを通して、江戸幕府の存続について考えたことを、「時代の流れ」という語句を用いて、ノートにまとめさせる。 ・数人を指名し、発表させる。

(4) 授業の視点

- ・徳川慶喜になったと仮定して、江戸幕府存続のための政策を考える学習活動において、事象や意見を可視化した板書をしたり、意見交換の場を設定したりしたことは、生徒が共に学び合い、考えを深めていく上で効果的であったか。

5 板書計画

